

「ものプロ」

～看大連知財NWメルマガ～(第1回)

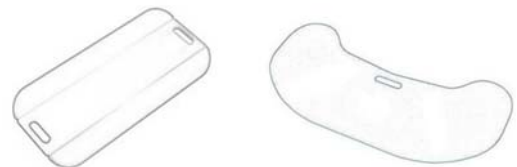
【はじめに】

看大連知財NWメルマガ「ものプロ」は、「北東北ものづくりプロジェクト形成ネットワーク」を前身とする「看護系大学連携による知的財産創出ネットワーク」より発行するメールマガジンです。当ネットワークに参加する札幌市立大学、青森県立保健大学、岩手県立大学、三重県立看護大学の知財関連の事例紹介や、知財に関するいろいろな知識などをお伝えしていきます。

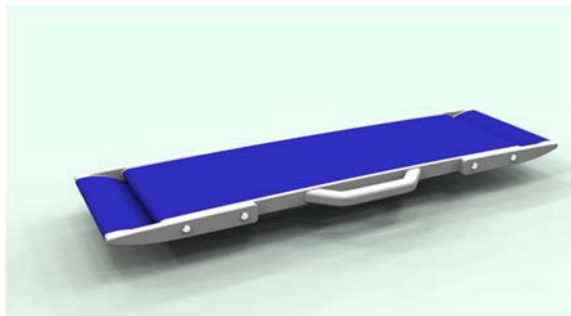
このメールマガジンにより、少しでも知財に対する興味をお持ちいただけますと幸いです。

【事例紹介】(移乗支援用具)スライディングボードの開発 ～札幌市立大学～

車いすからベッドへ、ベッドから車いすへの移乗において、介助を必要とする被介助者(患者)の移乗においては、①介助者側：介助時の身体的負担(腰痛)②被介助者側：他者にゆだねる心理的・身体的負担、活動意欲の低下といった問題があります。現状でも、このような身体的負担を軽減あるいは解消するための移乗動作を支援補助するスライディングボードは存在します。しかし、使用時にたわみが発生するなど、安定感に乏しく、介助者の力が必要です。この問題を解消すべく、持ち運びできる程度のコンパクトさを確保しつつ、しっかりとした安定感や、極めて少ない力で介助することのできるスライド性等を兼ね備えた製品プロトタイプを発明しました*。



既存のスライディングボード



製品プロトタイプ



設置イメージ

しかし、発明するだけでは、実際に困っている現場に届きません。製品化し、商品として市場に出て、はじめて現場の問題解決につながります。

そこで、まずは特許出願を行いました。そのうえで、イノベーションジャパンやJST新技術説明会等の展示会へ出展し各企業へプレゼンを行い、数社との交渉の末、現在のパートナー企業と専用実施権契約を締結しました。

現在はパートナー企業と製品のブラッシュアップを行い、少しでも早く商品として市場に出せるよう取り組んでいます。

※製品プロトタイプの説明は国立研究開発法人科学技術振興機構新技術説明会HPを参照

https://shingi.jst.go.jp/kobetsu/iryo/2017_iryoo.html

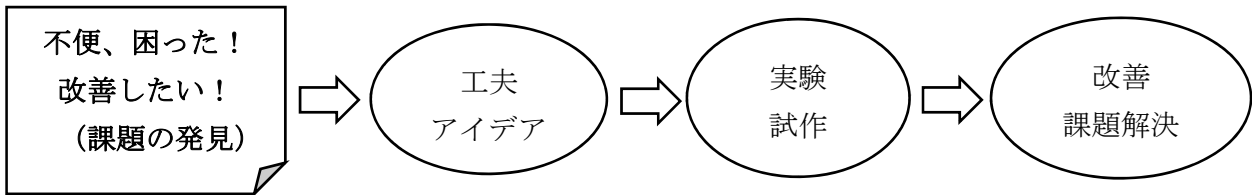
【コラム】発明と特許の関係について

発明は、身の回りの不便なこと、困ったことに対する気付きから生まれます。
課題を発見し、解決することにより生活が便利になり、豊かになります。

しかし、発明をただけでは特許ではありません。特許として認められるには、発明を文書化して特許庁に特許出願し、特許審査、登録という手続きが必要です。

特許として強い権利を得るためには発明を一般化し幅広く権利化する柔軟な発想も必要です。

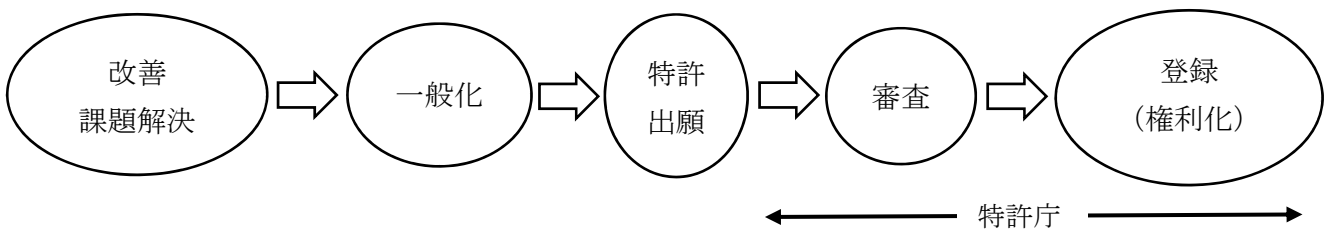
発明



課題解決！めでたし、めでたし！
身近な課題をピンポイントで解決できた！
⇒次は特許を取って事業化したい。

同じやり方が
他にも応用で
きないか？

特許

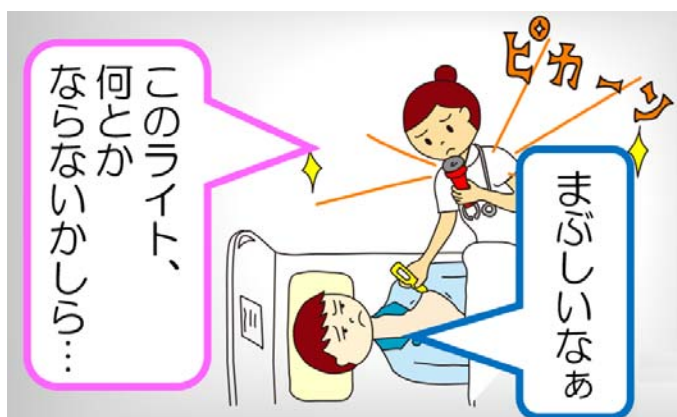


発明を一般化することにより、類似の課題を含めて幅広く課題を解決！
特許化すれば第三者が簡単には真似できず、発明者の権利が幅広く保護される。
⇒発明者は独占的に実施できる
世の中は生活が便利に、豊かになる！

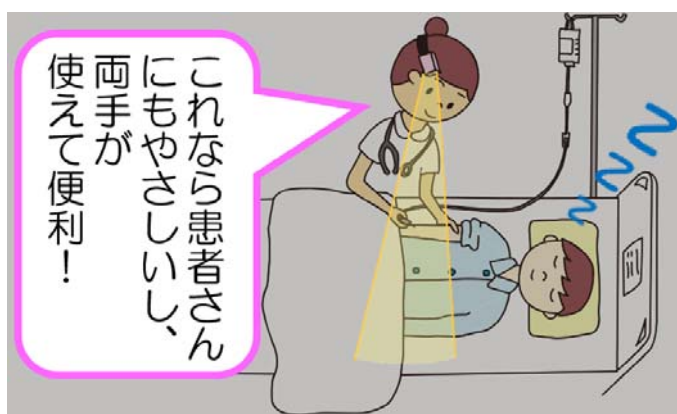
第三者はそれを見てさらに工夫する。
⇒世の中の更なる進歩につながる。

【参考事例】 島根大学医学部附属病院看護部

ハンズフリー ナースライト～LUMINURSE～ 誕生物語



【今まで、】
患者さんの様子を夜間観察する際にペンライトなどを用いていた。【しかし、】看護師は実際の現場では医療機器やバイнда等で両手がふさがりがちで使い勝手が悪く、患者さんの目にも光が当たりストレスを与えたり、相部屋の患者さんまで起こしてしまうなどの問題があった。



【そこで、】
患者さんの状態を見ようとかがんだときにライトを点灯させ、必要以上に光が拡散しないようなハンズフリーのライトを工夫した。
光源を看護師の目の高さとし、目線と光軸を揃え自然な使用感が得られるようにした。また、LEDを用いて軽量化した。

Doライト株式会社(出雲市)、株式会社島根富士通(出雲市)
島根大学医学部附属病院看護部

超軽量(33g)

光質自由自在

目線と光線が一致

照射エリア変更可能

バッテリー内蔵(8時間)

ハンズフリー

3つの「やさしさ」

- 看護師にやさしい
- 患者にやさしい
- 開発にやさしい

※薬機法

看護師がハンズフリーで容易に操作でき、患者さんに光ストレス負担を与えない看護用LEDライトを開発！

